

第5次豊郷町総合計画 基本構想（素案）



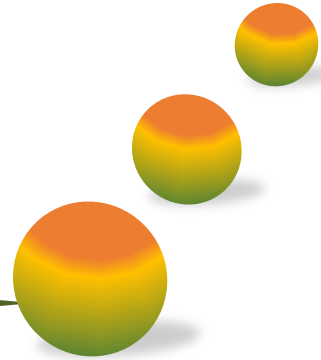
2018年11月1日

豊郷町

目次

I	はじめに	1
	第1章 第5次豊郷町総合計画とは	2
	1. 総合計画ってなに？	
	2. 総合計画を策定する理由	
	3. 策定の目的	
	4. 計画の構成と期間	
	第2章 まちの現状と課題	4
	1. 豊郷町の地域概況	
	2. まちをとりまく動き	
	3. 住民ニーズの把握	
	4. まちづくりの課題	
II	基本構想	27
	第1章 まちづくりの理念と将来像	28
	1. まちづくりの理念	
	2. まちの将来像	
	3. 人口の見通し	
	4. 将来の地域構造	
	第2章 まちづくりの基本目標	32
	基本目標1. 子育て環境の強みアップ	
	基本目標2. 全世代参加の地域共生力アップ	
	基本目標3. 暮らしの安全・安心力アップ	
	基本目標4. まちの魅力と活力アップ	
	基本目標5. 住民直結の行政力アップ	

I はじめに



第1章

第5次豊郷町総合計画とは

1. 総合計画ってなに？

総合計画は、将来、豊郷町をどのような「まち」にしていくのか、そのためにだれが、どんなことをしていくのか、それらの目標や方針を、総合的・体系的にまとめたものです。本町の福祉やまち・ひと・しごと創生、環境といったすべての計画の基本となるものです。

本町では、これまで約10年ごとに改定を行ってきました。現在の町総合計画は第4次にあたり、平成21年度（2009年度）から平成30年度（2018年度）までの10年間を計画期間としています。

2. 総合計画を策定する理由

かつて、地方自治法において、市町村に対し、総合計画の基本部分である「基本構想」について、議会の議決を経て定めることが義務付けられていました。しかし、平成23年の地方自治法の一部改正により、この策定義務はなくなり、総合計画の策定は、市町村の独自の判断に委ねられることとなりました。

本町では、これからの時代には、効率的で効果的な町政運営・地域経営がよりいっそう必要となると考え、平成31年からの新しい10年間を見通した、「第5次豊郷町総合計画」を策定することにしました。

3. 策定の目的

本町では、これまで第4次豊郷町総合計画（豊郷リスタートプラン）に基づいて、平成30年度を目標年次とし、「やすらぐまち」「元気なまち」「つながるまち」をまちづくりの理念とし、「ともに よろこび さらなる とよさと」をまちづくりの基本テーマとして、まちづくりを進めてきました。その目標年次を迎えることから、本町の今後10年間のまちづくりの基本的な指針となる「第5次豊郷町総合計画」（基本構想および基本計画）を策定する必要があります。

策定にあたっては、厳しい行財政の状況や、公共施設の大量更新など、まちをとりまく環境が変化していくなかで、少子高齢化の進展に伴う人口変動等の将来を見通しながら、各種関連計画等との調整を図りつつ、さまざまな住民の声を聞くとともに、第4次計画期間の検証を行い、まちの現状や課題をとらえ策定しなければなりません。

このような観点から、第5次総合計画は、これまで本町において積み上げてきた住民との対話と協働のまちづくりを検証しながら、次なるステップとして住民とともにめざす明日のすがたを明確にし、その実現へ向けて地域資源・行政資源を最大限活用するための工程を示す「豊郷町の地域経営計画」と位置付けるものとします。

4. 計画の構成と期間

第5次豊郷町総合計画は、基本構想及び基本計画により構成します。

(1) 基本構想

基本構想は、豊郷町の10年後の将来を展望し、住民と行政の協働によるまちづくりの基本的な理念とまちの将来像を明らかにし、その実現のための基本目標を示します。

計画期間は、2019年度から2028年度までの10年間とします。

(2) 基本計画

基本計画は、基本構想で示すまちづくりの基本方針にもとづいて、各分野において取り組む施策方針を体系的に示します。

計画期間は、基本構想と同様2019年度から2028年度までの10年間とします。

また、社会経済情勢の変化や計画の評価などを踏まえ、必要に応じて見直しを行うものとします。

(3) 進行管理

計画はその着実な実行と点検・評価・改善の継続が重要であり、PDCA マネジメントサイクルによる進行管理の仕組みを視野にいれながら、計画策定を行います。

第2章

まちの現状と課題

I
はじめに

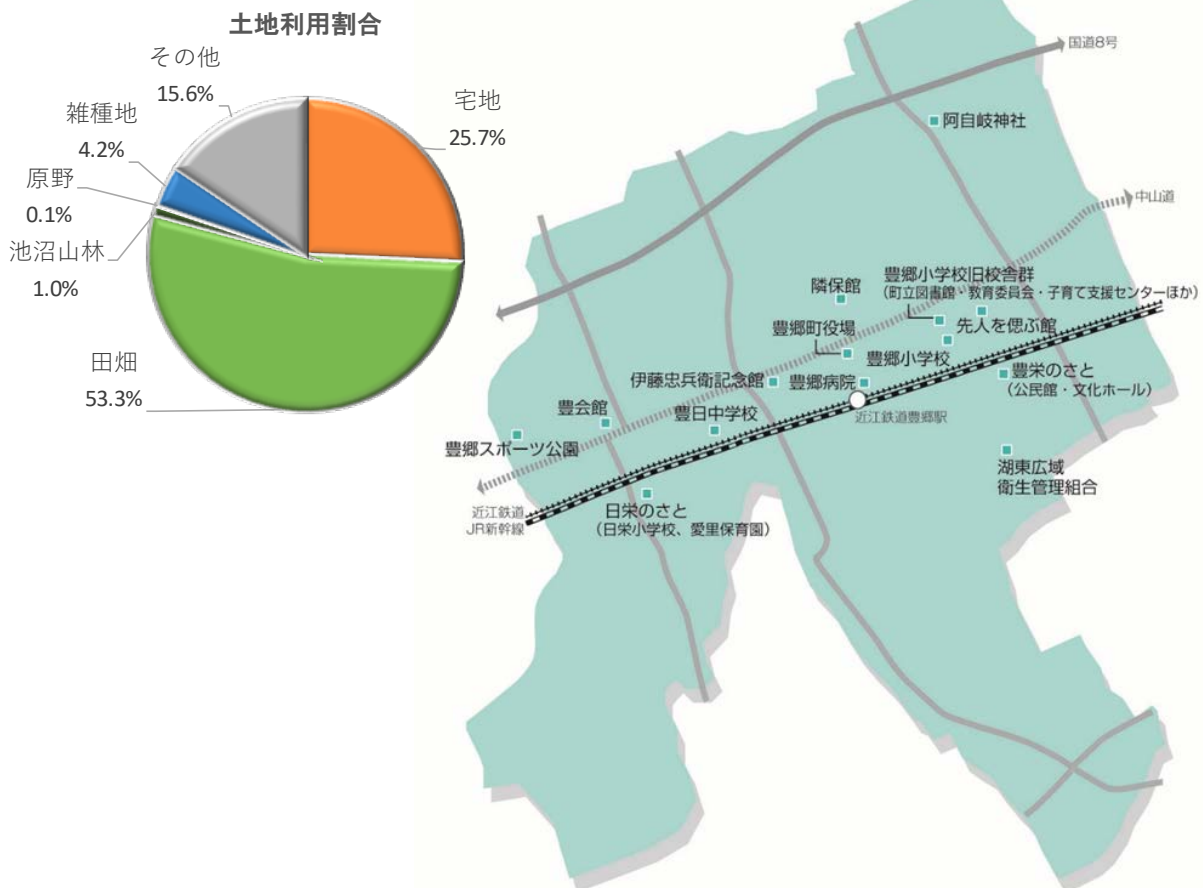
1. 豊郷町の地域概況

(1) まちの概況

本町は、滋賀県東部にあって彦根市・甲良町・愛荘町に隣接し、面積7.80km²、東西5.7km、南北4.9kmというまとまりのよい小さなまちです。ほぼ全域が平坦地で、田畑が5割強、宅地が2割強を占めています。中山道の高宮宿と愛知川宿の間において、まちの中央部を街道沿いの町並みが広がり、その周囲に農村集落が広がっています。

歴史的には、日本最古の庭園のひとつといわれる阿自岐庭園（阿自岐神社）にみられるように古くから開けた土地で、中世に創建された寺院が今も残されています。戦国時代にはまちも戦火に焼かれましたが、その中でも持ち前の強く明るい気風を発揮し、華やかで陽気な唄と踊りの江州音頭を生み出しました。近世には、近江商人が活躍し全国を舞台に商売を広げていきました。豊郷町には、このような歴史を偲ばせる文化財が多く残されています。

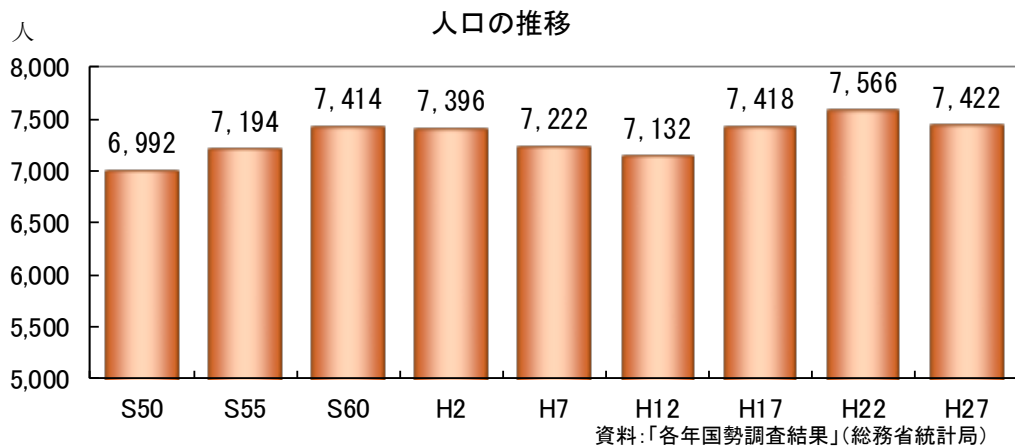
近年では国道8号沿線などに商工業地が形成され、近江鉄道豊郷駅に加えてJR稲枝駅や河瀬駅も近いという利便性や上下水道などのインフラ整備が整っていることなどから、宅地造成がさかんに行われています。



(2) まちの人口と今後の予測

① 人口の推移

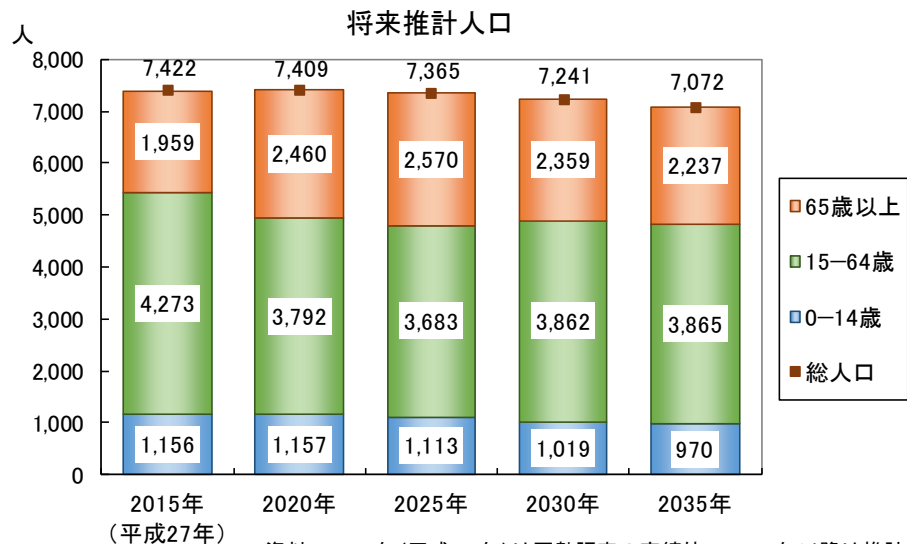
本町の人口は昭和60年まで増加傾向にありましたが、その後平成12年まで減少が続きました。平成17年から再び増加傾向になった後、平成27年は減少し7,422人となっています。



② 将来人口の推計

将来人口をコーホート要因法[※]で推計すると、次のとおり緩やかに減少し、2035年には約7,000人になると予測されます。

年齢構成については、2020年には0～14歳の人口は横ばいですが、15～64歳の生産年齢人口が減少し、65歳以上の人口は大きく増加し総人口の33%に達するものと予測されます。



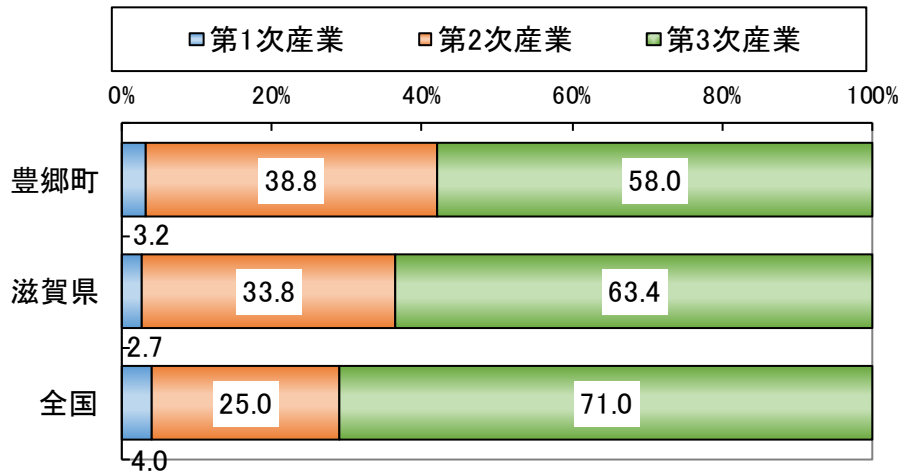
※ コーホート要因法:市区町村別の男女、年齢5歳階級別結果を用いて将来人口を推計する方法。ここでは、2005年(平成17年)及び2010年(平成22年)国勢調査を用いて推計している。

(3) まちの産業

本町の産業構造は、第3次産業※の就業人口が最も多く58.0%を占めています。また、全国と比べて第2次産業の就業人口が多い滋賀県の中にあっても、本町における第2次産業の就業人口は38.8%と多いのが特徴です。

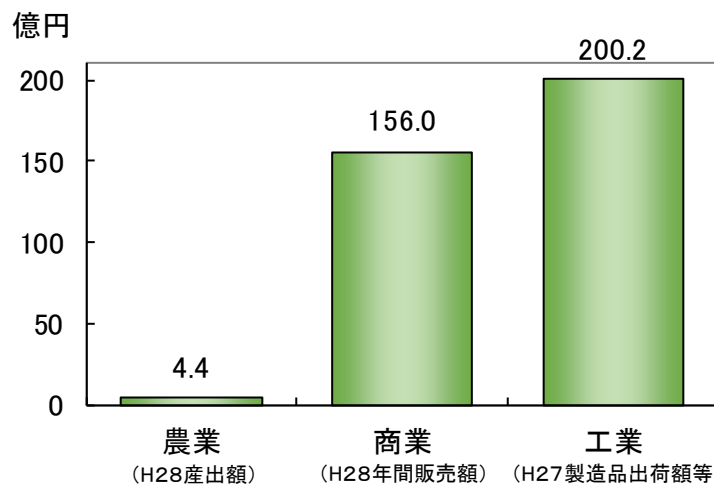
産業別の生産額をみると、工業の製造品出荷額等は近年伸び悩んでいましたが、平成27年には200.2億円と増加しています。また、商業の年間販売額は平成28年に156.0億円で、10年前より増加しています。農業の産出額では減少が続いていましたが、平成28年には4.4億円と微増しています。

産業別就業人口の割合



資料:「平成27年度国勢調査結果」(総務省統計局)

産業別生産額の状況



資料:平成28年市町村別農業産出額(推計)、平成28年経済センサス-活動調査

※ 第1次産業:農林水産業、第2次産業:工業、建設業など、第3次産業:商業、サービス業など。

(4) 第4次計画策定後のまちの歩み

年 度	月	出 来 事
平成21 (2009)	3月	総合計画(第4次)「リスタートプラン」策定 豊郷小学校旧校舎群耐震補強および大規模改修工事完成
	5月	豊郷小学校旧校舎群竣工
	10月	湖東定住自立圏(1市4町)形成協定締結
平成23 (2011)	6月	いきがい協働センター竣工
	11月	町制施行40周年記念式典
平成24 (2012)	3月	豊郷町スポーツ公園内にグラウンドゴルフ場を開設
	10月	浦安市・室戸市との災害時相互応援協定締結
	12月	豊郷幼稚園増築工事完成
平成25 (2013)	3月	豊郷小学校旧校舎群 登録有形文化財に登録
	4月	豊郷町子育て応援医療費助成の創設により小学生および中学生の医療費無料化実施
	9月	豊栄のさと大規模修繕工事完成
平成26 (2014)	3月	豊日中学校ランチルーム完成 とよさとプリンが平成25年度優良ふるさと食品中央コンクール国産農林産品利用部門 農林水産省食料産業局長賞受賞
	4月	地籍調査事業開始
	10月	豊郷町子育て応援医療費助成の拡充により高校生世代まで医療費無料化実施(県内初)
	12月	豊郷町民体育館改修工事完成
平成27 (2015)	2月	豊郷小学校旧校舎群で戦前の16ミリフィルムが見つかり、復元とデジタル化に成功
	3月	豊郷スポーツ公園法面(体育館側)改修工事完成
	4月	豊日中学校学校給食開始
	8月	豊日中学校トイレ改修工事完了
	11月	日栄小学校プール解体工事
12月	豊郷武道館屋根他改修工事完成	
平成28 (2016)	8月	日栄小学校校舎増改築工事完成
	11月	町制施行45周年旧村合併60周年記念式典
平成29 (2017)	3月	北部・南部簡易水道事業廃止 豊郷町上水道事業創設(公営企業法適用)
	4月	豊郷町防災行政無線デジタル化 とよさとプリンが第3回介護食品(スマイルケア食)コンクール農林水産大臣賞受賞
平成30 (2018)	4月	小中学校給食費を無償化(中学校は県内初)

2. まちをとりまく動き

～豊郷町の将来展望や、まちづくりの課題に関わる社会の潮流についての
主要な動向～

(1) 人権の尊重

21世紀は「人権の世紀」ともいわれます。しかし、依然としてあとを絶たない家庭内暴力や児童虐待、高齢者虐待とともに、部落差別をはじめ、性や年齢、国籍、障がいの有無による差別など、さまざまな人権侵害に関する問題はいまだに解決されていません。本町においても、引き続き「人権の尊重」を重要な課題として位置づけ、あらゆる施策の基本に据える必要があります。

(2) 少子高齢化・人口減少社会の到来

わが国の人口は、平成20年(2008年)の約1億2,800万人を頂点として減少に転じ、これまで経験したことのない人口減少社会を迎えました。合計特殊出生率は平成26年(2014年)には1.42まで回復しているものの、人口置換水準といわれる2.07にはまだ開きがあり、今後、出生率が回復したとしても、数十年間は総人口の減少が避けられない見通しです。また、2025年にはいわゆる団塊世代すべてが75歳以上となるほか、2040年にはいわゆる団塊ジュニア世代が65歳以上になるなど、高齢化は今後さらに進展することが見込まれており、高齢者の急激な増加に伴う医療・介護需要の増大への対応が課題となっています。

本町の総人口は昭和60年まで増加傾向にありましたが、その後平成12年まで減少が続き、平成17年から再び増加傾向になった後、平成27年は減少し7,422人となっています。また、2008年から2012年にかけての本町の合計特殊出生率は1.76で県内市町第3位の水準となっています。社人研(国立社会保障・人口問題研究所)の推計によると、本町でも少子高齢化・人口減少が進み、2040年には6,989人、65歳以上の人口割合は35.3%に達すると予測されています。

今後、このような少子高齢化の進行に対応し、出生率の維持・向上、人口の流出抑制と転入の維持を図るとともに、高齢者をはじめあらゆる住民が地域で安心して暮らせる地域包括ケアシステムの深化・推進を図る必要があります。

(3) グローバル社会の変化

① 変化する国際社会の中での競争と交流の活性化

中国やASEAN諸国、インドの経済発展をはじめ、世界規模的(グローバル)な経済の進展に伴って、産業の国際競争の激化が進んでいます。アジアにおける貿易

構造を見ても、我が国の存在感が低下し、中国と各国、各地域との関係が強まっています。一方、人材や文化の国際的交流もいっそう活発化しています。

本町においても、今後広い視野に立ちながら、互いの文化を認め合うことによって、多文化共生の考え方や相互理解を深めるとともに、インバウンド観光の促進などグローバル社会における地域の活性化を図ることが必要です。

② 複雑化・多様化する環境問題への対応

人類社会の急激な成長を支えてきた化石資源を利用したエネルギー消費によって、地球温暖化に伴う気候変動が進んでいます。気候変動の進行や良好な自然環境の喪失による生物多様性の損失等地球環境問題は大きな課題であり、自然環境と調和した持続可能な経済社会システムを構築することが必要です。また、将来にわたって食料、水、エネルギー等の需要を安定的に満たすため、食料自給率の向上、健全な水循環の維持・回復、省エネルギーの推進等が課題となっています。

本町においても、今後持続可能な発展へ向けて、循環型社会の構築をめざす必要があります。

(4) 暮らしを取り巻く変化

① 巨大災害の切迫、防災・減災対策の強化

本町は災害の少ないまちですが、全国の動向をみると、平成7年（1995年）の阪神・淡路大震災、平成23年（2011年）の東日本大震災等の地震、津波等により甚大な被害が発生し、今後、首都直下地震及び南海トラフ地震の発生が30年以内に70%程度と高い確率で予測されています。また、雨の降り方は局地化、集中化しており、風水害、土砂災害が頻発・激甚化することが懸念されています。

本町においても、ハード対策・ソフト対策の適切な組合せによる防災・減災対策を進め、災害に備える必要があります。

② 広域ネットワークの形成による人やものの流れの変化

リニア中央新幹線の東京と名古屋間が2027年に、名古屋と大阪間が2045年に、また、北陸新幹線の敦賀と大阪間が2045年頃に開業することが予定されています。また、新名神高速道路の開通（大津と高槻間が2023年度に開通する予定）により、広域高速道路網の利便性が向上すると期待されています。

本町のまちづくりにおいても、人やものの流れの大きな変化を視野に入れつつ、地域の活性化を図る必要があります。

③ ICTの進化等技術革新の進展

近年のICTの劇的な進化は国民の生活や企業活動、経済社会に大きな変化をもたらしつつあり、そのスピードは近年加速度的に増えています。

ICTを活用した場所にとらわれない柔軟な働き方であるテレワーク、遠隔教育、遠隔医療や在宅医療・在宅検診等の普及、ロボット技術を応用したロボットスーツ等の開発、水素の利活用の進展など、暮らしに大きな影響を与える技術革新の進展が期待されています。

本町のまちづくりにおいても、このような技術革新の進展を視野に入れつつ、地域の活性化を図る必要があります。

(5) まちづくりを取り巻く変化

① 地方創生の推進

人口減少社会の到来のなかで、国では、日本の人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及びこれを実現するため、今後5か年の目標や施策や基本的な方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をとりまとめ、平成26年12月に閣議決定しました。

これを受けて、豊郷町でも平成27年度に『豊郷町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略』を策定しており、出生率の向上や人の流れの創出、雇用の場の確保など、地方創生の推進に努めていく必要があります。

② 住民参加と協働への意識の高まり

全国的に様々な分野において、地域組織やボランティア、NPOなど多様な主体が自主的・主体的にまちの課題解決に取り組もうとする動きが定着しつつあります。

本町においても引き続き、まちづくりの主体であり主役である住民がより積極的にまちづくりに参画し、住民、団体、事業所、行政が、互いのパートナーシップによって、自分たちのまちを自分たちの手で、より住みよいまちにしていくため、協働のまちづくりを進めることが必要です。

③ 行財政改革の推進

国・地方ともに厳しい財政状況にある中で、行財政改革の推進が求められています。

公共投資については引き続き費用対効果に関する評価を行い改革を推進するとともに、経常的な業務についても効果的・効率的なものになるよう絶えず見直し・改善を進め、住民に対する説明責任にこたえていく必要があります。そして、より効果的で効率的な行政運営をめざして、職員の政策形成能力の向上、行政システムの改善、行政組織の改革に取り組む必要があります。

3. 住民ニーズの把握

～豊郷町まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン・総合戦略」および豊郷町の地域福祉に関するアンケート調査～

(1) 各調査の調査概要

① 調査の目的

【まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン・総合戦略」に関するアンケート調査（※以下、総合戦略）】

将来の町の人口を展望する「人口ビジョン」と、地域の実情に応じた今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策内容をまとめた「総合戦略」策定にあたり、基礎資料とするために行いました。

【地域福祉に関するアンケート調査（※以下、地域福祉）】

誰もが住み慣れた地域で安心して、いきいきと暮らすことをめざす「豊郷町地域福祉計画」の策定において、地域福祉に関する意見やニーズを把握し計画策定等の基礎資料とするためアンケート調査を実施しました。

② 調査概要

【調査地域】

ともに豊郷町全域

【調査対象】

- 総合戦略：18歳以上の町内居住者から2,500人を無作為抽出
- 地域福祉：18歳以上の町内居住者から1,000人を無作為抽出

【調査方法】

ともに郵送による配布・回収

【調査期間】

- 総合戦略：平成27年（2015年）6月
- 地域福祉：平成29年（2017年）11月24日から平成29年12月11日

【回収結果】

	配布数	回収数	回収率
総合戦略	2,500票	844票	33.8%
地域福祉	1,000票	381票	38.1%

③ 調査結果の見方

この調査結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 百分率による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、全て小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記します。このため、全ての割合の合計が100%にならないことがあります。また、複数回答の設問では、全ての割合の合計が100%を超えることがあります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表します。
- 図表では、コンピュータ入力の都合上、回答の選択肢の文言を短縮している場合があります。

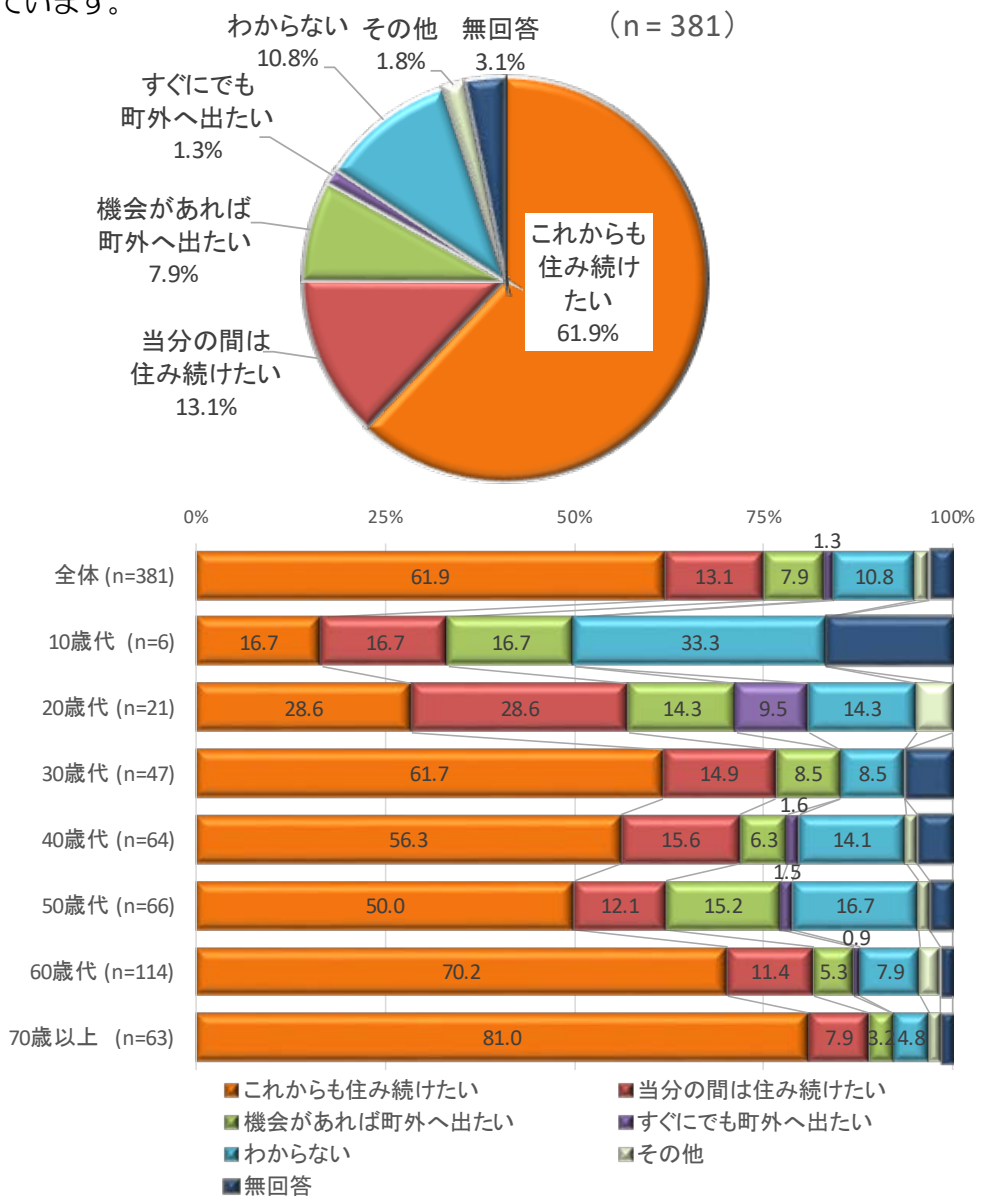
④ 調査結果のまとめ

1) 定住意向 (地域福祉・H29)

あなたはこれからも豊郷町に住み続けたいと思いますか。(1つだけ選択)

全体では、最も回答率が高かったのは、「これからも住み続けたい」61.9%で過半数を占めており、「当分の間は住み続けたい」13.1%と合すると75%が定住志向であることがわかります。一方、「機会があれば町外へ出たい」は7.9%、「すぐにも町外へ出たい」は1.3%となっています。

年齢別にみると、他の年代に比べて10歳代では6人中3人が、20歳代では21人中5人が、50歳代では66人中11人が移住志向とやや高く、この年代においては「機会があれば町外へ出たい」「すぐにも町外へ出たい」の合計が15%以上となっています。

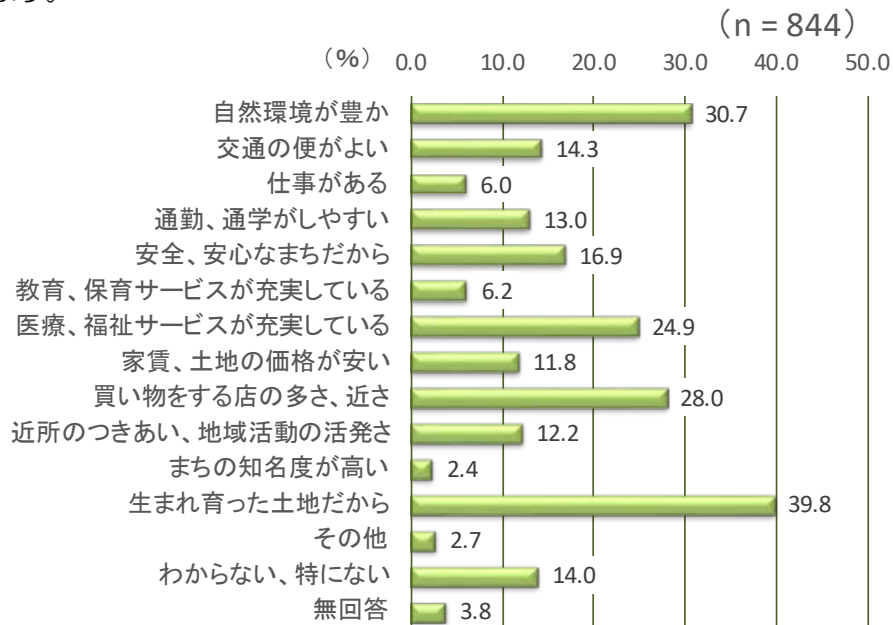


2) まちの暮らしやすさについて (総合戦略・H27)

豊郷町が暮らしやすいと感じる点はどういった点ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「生まれ育った土地だから」が39.8%で最も多く、次いで「自然環境が豊か」が30.7%、「買い物をする店の多さ、近さ」が28.0%、「医療、福祉サービスが充実している」が24.9%、「安全、安心なまちだから」が16.9%となっています。

20代後半で「教育・保育サービス」、70歳以上で「医療・福祉」、20代前半で「自然環境」「近所づきあい、地域活動」「生まれ育った土地」を挙げる率が高くなっています。



	自然環境が豊か	交通の便がよい	仕事がある	通勤、通学がしやすい	安全、安心なまちだから	教育、保育サービスが充実している	医療、福祉サービスが充実している	家賃、土地の価格が安い	買い物をする店の多さ、近さ	近所のつきあい、地域活動の活発さ	まちの知名度が高い	生まれ育った土地だから	その他	わからない、特にない	無回答	
全体	30.7	14.3	6.0	13.0	16.9	6.2	24.9	11.8	28.0	12.2	2.4	39.8	2.7	14.0	3.8	
性別																
男性	28.9	17.5	6.2	13.2	17.2	4.2	21.9	12.7	27.7	14.0	3.0	55.1	2.2	13.5	1.5	
女性	33.6	12.1	6.1	13.5	17.0	8.3	28.8	11.1	29.3	10.9	1.9	27.0	3.3	14.9	2.1	
年齢																
19歳以下	28.6	28.6	0.0	28.6	21.4	0.0	14.3	14.3	42.9	21.4	0.0	57.1	7.1	21.4	0.0	
20歳～24歳	44.4	4.4	0.0	2.2	6.7	2.2	8.9	6.7	11.1	24.4	4.4	64.4	2.2	15.6	4.4	
25歳～29歳	30.0	12.0	4.0	12.0	12.0	14.0	20.0	26.0	18.0	12.0	0.0	46.0	4.0	16.0	2.0	
30歳～34歳	25.0	13.2	2.6	13.2	14.5	13.2	34.2	13.2	22.4	7.9	2.6	38.2	7.9	6.6	1.3	
35歳～39歳	15.1	3.8	1.9	18.9	5.7	7.5	28.3	17.0	30.2	7.5	1.9	34.0	1.9	17.0	0.0	
40歳～44歳	29.3	7.3	6.1	17.1	15.9	12.2	30.5	14.6	22.0	9.8	2.4	31.7	4.9	17.1	1.2	
45歳～49歳	15.7	7.1	5.7	17.1	10.0	7.1	24.3	22.9	22.9	4.3	0.0	42.9	0.0	18.6	2.9	
50歳～54歳	29.3	10.3	6.9	15.5	15.5	5.2	20.7	10.3	32.8	8.6	1.7	32.8	0.0	19.0	1.7	
55歳～59歳	36.3	18.6	8.8	17.7	18.6	0.0	22.1	11.5	28.3	15.0	1.8	44.2	3.5	8.0	2.7	
60歳～64歳	34.8	19.6	12.0	10.9	20.7	3.3	22.8	9.8	31.5	8.7	3.3	37.0	3.3	16.3	1.1	
65歳～69歳	42.9	19.8	5.5	8.8	15.4	2.2	23.1	3.3	36.3	19.8	4.4	39.6	0.0	17.6	2.2	
70歳以上	34.5	27.4	8.3	7.1	39.3	7.1	36.9	4.8	42.9	16.7	3.6	40.5	1.2	9.5	3.6	

●主な「その他」記入: 自然災害がない(3)／のんびりして落着いた雰囲気／高速道路が近い／国道が近いわりに静かで空気がきれい／地区の親近者以外の方が転入されていない所がよい／ほどほどの田舎でありながらも住むのにほとんど苦勞する点がない／子どもの医療費タダの期間が他の町より長め／金融機関が多い／家や土地がある／交通マナーが悪くはない／など

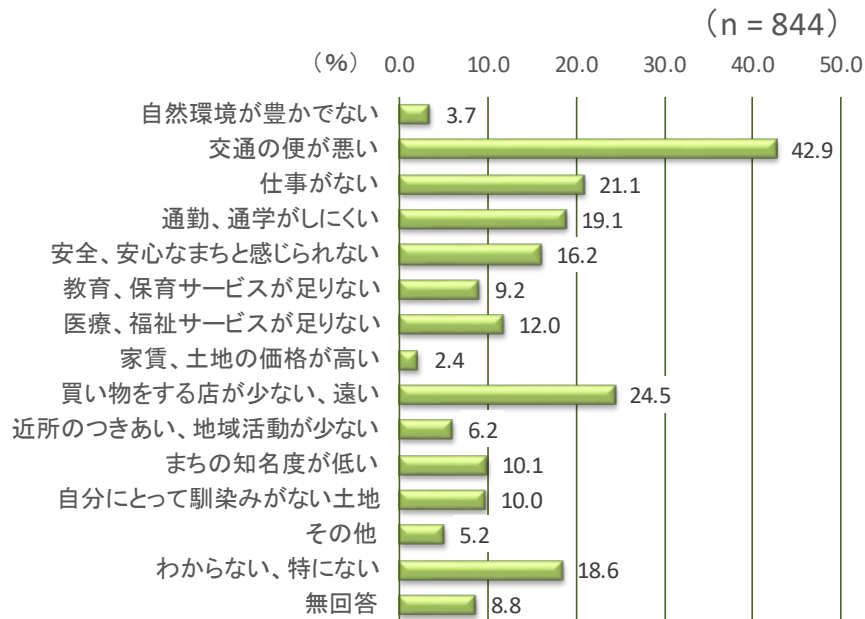
豊郷町が暮らしにくいと感じる点はどういった点ですか。

(あてはまるものすべてに○)

「交通の便が悪い」が42.9%で最も多く、次いで「買い物をする店が少ない、遠い」が24.5%、「仕事がない」が21.1%、「通勤、通学がしにくい」が19.1%となっています。

30代前半で「通勤・通学の不便」「安心・安全と感じられない」「教育、保育サービスの不足」、40代後半で「自然環境」「交通の便」「医療、福祉の不足」「家賃、土地の価格」を挙げる率が高くなっています。

また、19歳以下では「仕事がない」、20代前半では「買い物をする店が少ない、遠い」を挙げる率が高くなっています。



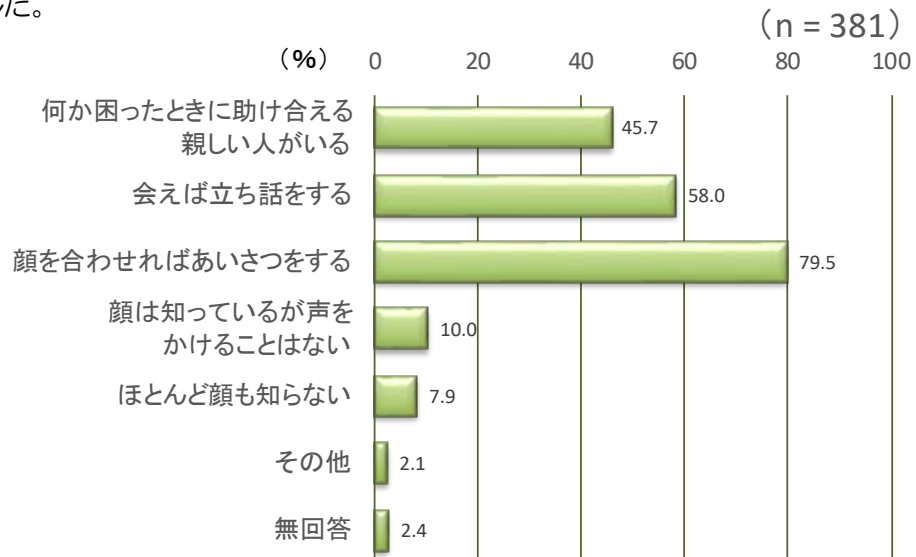
	自然環境が豊かでない	交通の便が悪い	仕事がない	通勤、通学がしにくい	安全、安心なまちと感じられない	教育、保育サービスが足りない	医療、福祉サービスが足りない	家賃、土地の価格が高い	買い物をする店が少ない、遠い	近所のつきあい、地域活動が少ない	まちの知名度が低い	自分にとって馴染みがない土地	その他	わからない、特になし	無回答
全体	3.7	42.9	21.1	19.1	16.2	9.2	12.0	2.4	24.5	6.2	10.1	10.0	5.2	18.6	8.8
性別															
男性	3.7	38.7	22.9	16.2	16.7	9.2	15.5	3.2	21.7	6.5	12.2	6.7	4.2	22.9	7.2
女性	3.8	48.2	20.1	22.5	16.5	9.7	9.0	1.7	27.7	6.1	8.3	13.5	6.4	15.1	6.9
年齢															
19歳以下	7.1	28.6	35.7	21.4	7.1	7.1	7.1	0.0	21.4	0.0	14.3	0.0	7.1	28.6	7.1
20歳～24歳	0.0	53.3	24.4	22.2	15.6	4.4	11.1	0.0	46.7	2.2	8.9	8.9	4.4	15.6	6.7
25歳～29歳	4.0	58.0	18.0	26.0	12.0	4.0	10.0	2.0	30.0	4.0	4.0	12.0	2.0	14.0	2.0
30歳～34歳	2.6	42.1	18.4	31.6	26.3	17.1	13.2	0.0	32.9	2.6	6.6	10.5	2.6	15.8	6.6
35歳～39歳	5.7	43.4	13.2	18.9	15.1	9.4	7.5	0.0	17.0	1.9	3.8	7.5	15.1	28.3	1.9
40歳～44歳	4.9	53.7	26.8	25.6	22.0	7.3	8.5	3.7	26.8	4.9	6.1	14.6	6.1	19.5	1.2
45歳～49歳	8.6	65.7	28.6	25.7	20.0	8.6	18.6	4.3	24.3	11.4	15.7	15.7	4.3	17.1	0.0
50歳～54歳	1.7	48.3	20.7	13.8	19.0	3.4	10.3	3.4	15.5	5.2	13.8	17.2	10.3	13.8	5.2
55歳～59歳	0.9	41.6	28.3	15.9	12.4	14.2	16.8	3.5	26.5	6.2	9.7	10.6	6.2	15.9	8.0
60歳～64歳	5.4	29.3	16.3	16.3	16.3	12.0	14.1	3.3	23.9	9.8	13.0	5.4	6.5	19.6	7.6
65歳～69歳	5.5	37.4	20.9	16.5	19.8	9.9	14.3	2.2	18.7	6.6	9.9	8.8	2.2	18.7	13.2
70歳以上	1.2	27.4	13.1	6.0	6.0	6.0	6.0	2.4	19.0	10.7	16.7	3.6	1.2	27.4	19.0

●主な「その他」記入:「けいおん」関係者のマナーの悪さ／公共交通が不便(3)／中山道がせまい・危ない(3)／地域活動が多すぎる・近所づきあいが面倒(8)／住人のマナーが悪い／治安が悪い／地域独自性を打ち出していない／など

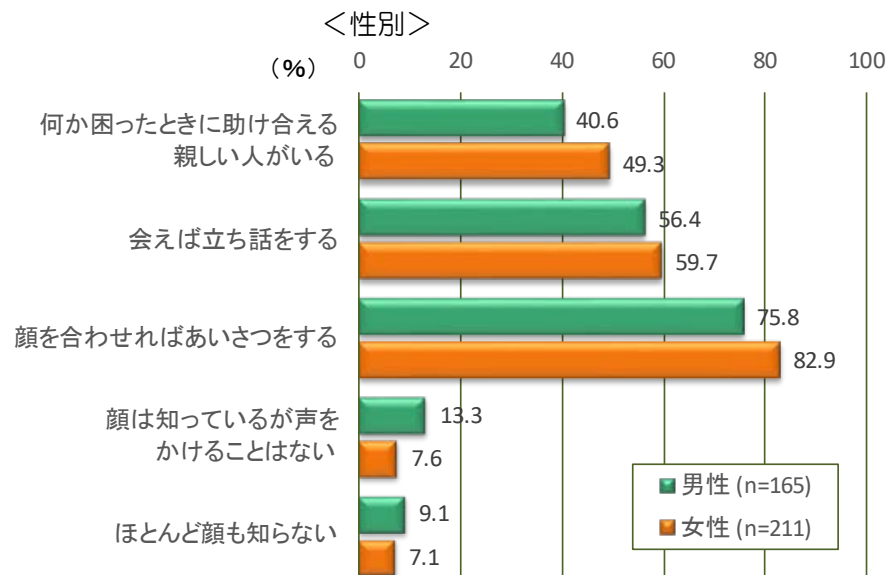
3) 地域との付き合い（地域福祉・H29）

地域の人とどのようなお付き合いをしていますか。（3つまで選択可）

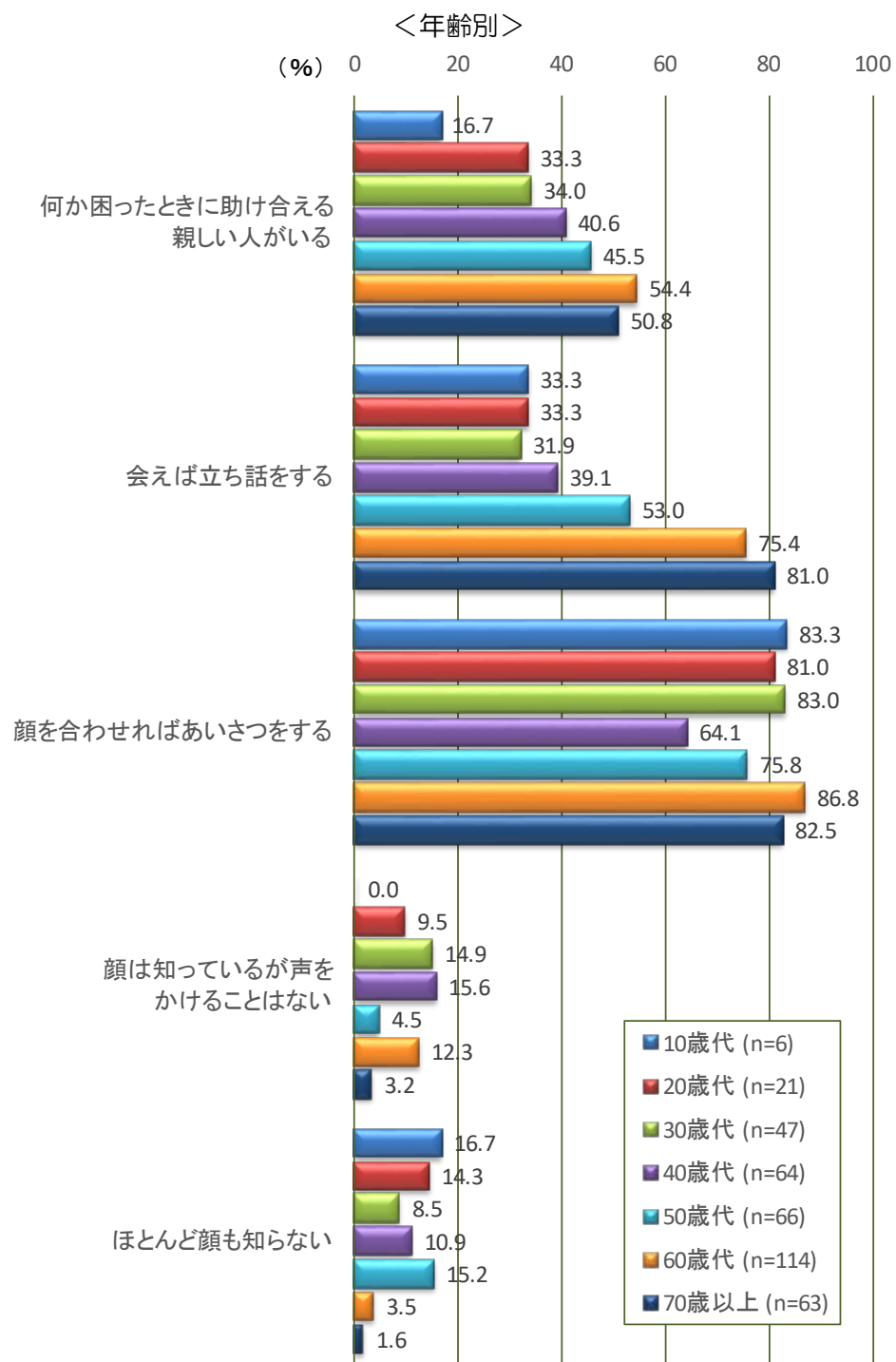
「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」は45.7%で、半数未満となっています。また、「会えば立ち話をする」は58.0%で、最も回答率が高かったのは「顔を合わせればあいさつをする」79.5%という結果でした。一方で、「顔は知っているが声をかけることはない」10.0%、「ほとんど顔も知らない」7.9%という回答もみられました。



性別にみると、男性は「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」という回答が女性より8.7ポイント低く、逆に「顔は知っているが声をかけることはない」や「ほとんど顔も知らない」への回答率が女性より高くなっています。



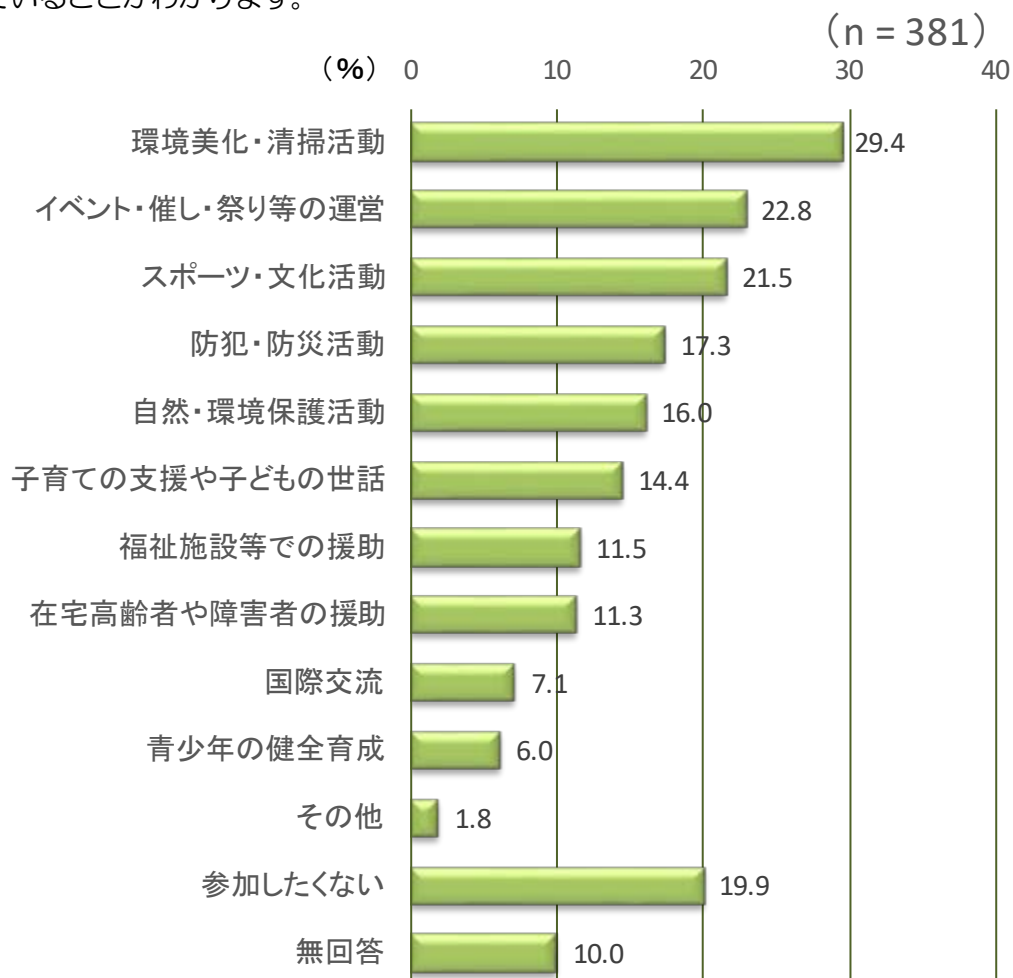
年齢別にみると、「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」や「会えば立ち話をする」への回答率は、概ね高齢になるほど高くなり、70歳以上では81.0%が「会えば立ち話をする」と回答しています。一方で、40歳代以下の年代では「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」「会えば立ち話をする」のいずれについても30~40%の回答率となっています。



4) 今後参加してみたい住民活動（地域福祉・H29）

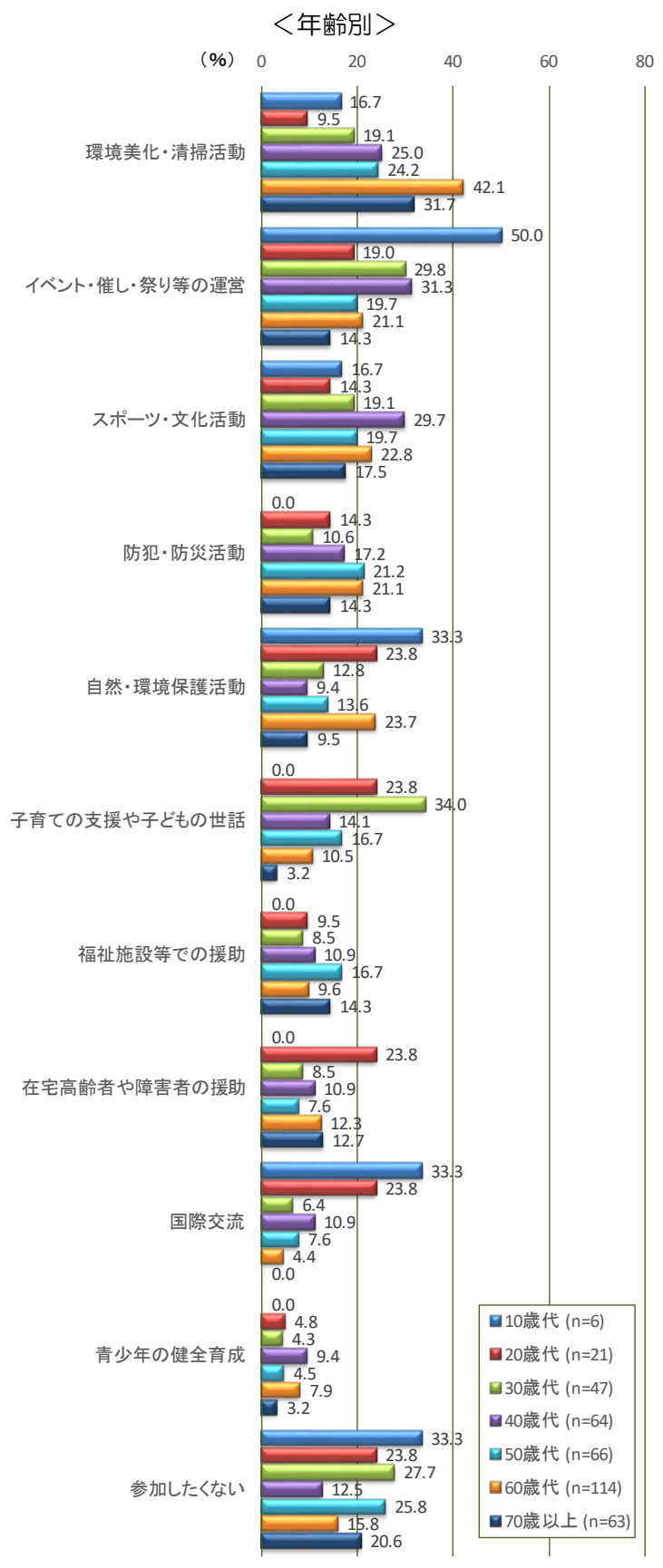
今後、どのような住民活動に参加してみたいと思われますか。

「環境美化・清掃活動」への回答率が最も高く 29.4%となっています。次いで「イベント・催し・祭りの運営」22.8%、「スポーツ・文化活動」21.5%、「防犯・防災活動」17.3%の順に高くなっています。上位項目については、前問の参加経験と同じ項目があがっていますが、ほかにも「自然・環境保護活動」や「子育ての支援や子どもの世話」「福祉施設等での援助」「在宅高齢者や障害者の援助」などの項目で、それぞれ 10%以上の人に参加してみたいと回答しており、関心が多岐にわたっていることがわかります。



※グラフ表示は回答の多い順

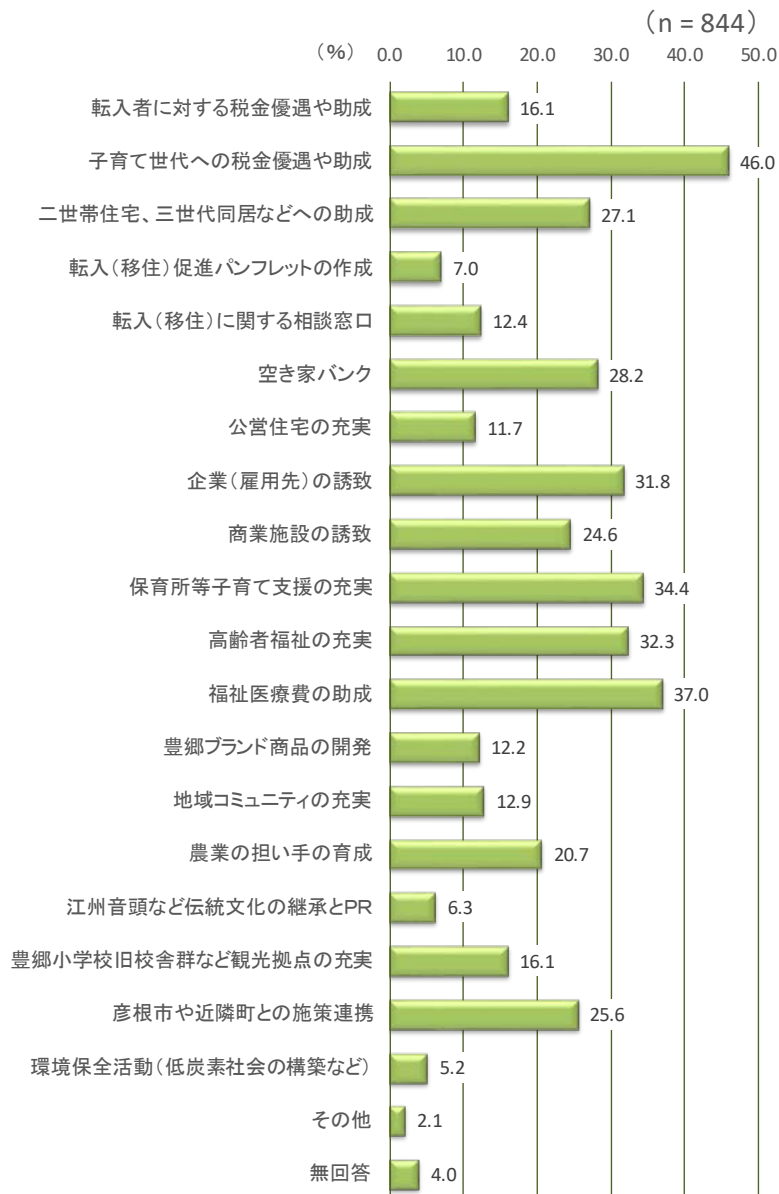
年齢別にみると、「環境美化・清掃活動」については 60 歳代、70 歳以上で高く、「イベント・催し・祭りの運営」は 10 歳代、40 歳代で高い結果でした。また、「子育ての支援や子どもの世話」は 20 歳代、30 歳代で高くなっています。



5) 人口減少社会と、まちづくりについて（総合戦略・H27）

豊郷町が人口減少問題に今後対応していく場合、重要だと思う事業やサービスは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「子育て世代への税金優遇や助成」が46.0%で最も多く、次いで「福祉医療費の助成」が37.0%、「保育所等子育て支援の充実」が34.4%、「高齢者福祉の充実」が32.3%、「企業（雇用先）の誘致」が31.8%となっています。



●主な「その他」記入: 婚活／琵琶湖と何らかのコラボ／バス、電車など交通面の充実／身の丈に合ったサービス／WEBでの情報提供／高齢者に対する教育／農業の担い手の支援／マナーの学習や挨拶がしっかりできるなど、他の学校に無いような学習を組み込み教育の充実をアピール／など

～豊郷町の地域福祉に係る団体アンケート調査～

(2) 調査概要

① 調査の目的

豊郷町で活動される福祉関連の活動団体や特定非営利活動法人の方などを対象に、本町の地域福祉に関するご意見や団体の活動状況をお聞きし、「豊郷町地域福祉計画」の策定に際しての基礎資料としてするために行いました。

② 調査概要

【調査対象】

豊郷町内で活動する26団体(回収数:26団体)

【調査方法】

担当課より配布・回収

【調査期間】

平成29年(2017年)11月

③ 主な調査結果

【団体として今後取り組みたい地域貢献】

豊郷町商工会	○空き家・空き店舗の活用 ○地域資源の活用
豊郷町観光協会	○インバウンド観光 ○SNSによるまちのPR ○現在の取り組みの継続・充実
豊郷町老人クラブ連合会	○子どもたちの交通安全指導 ○小中学校、保育園・幼稚園の授業への協力
豊郷町子育て支援センター	○子育てに不安を持つ家族への支援 ○0～2歳児家庭の「子育て広場」への参加促進

～豊郷町の地域福祉住民ワークショップおよび総合計画策定に係る中学生ワークショップ～

(3) 開催概要

① ワークショップの概要

【地域福祉住民ワークショップ（以下、住民ワークショップ）】

- 開催日時：平成30（2018）年7月22日（日）
午前10時～午前11時30分
- 開催場所：豊郷町隣保館
- 参加者：〔A〕若者世代8名、〔B〕子育て世代7名、〔C〕シニア世代8名、
〔D〕シニアおよび障がいおもちの方7名

【総合計画策定に係る中学生ワークショップ（以下、中学生ワークショップ）】

- 開催日時：平成30（2018）年8月3日（金）
午後1時30分～午後3時
- 開催場所：豊郷町役場別館3階
- 参加者：豊日中学校2年生9名、教師2名

② ワークショップの進め方

【住民ワークショップ】

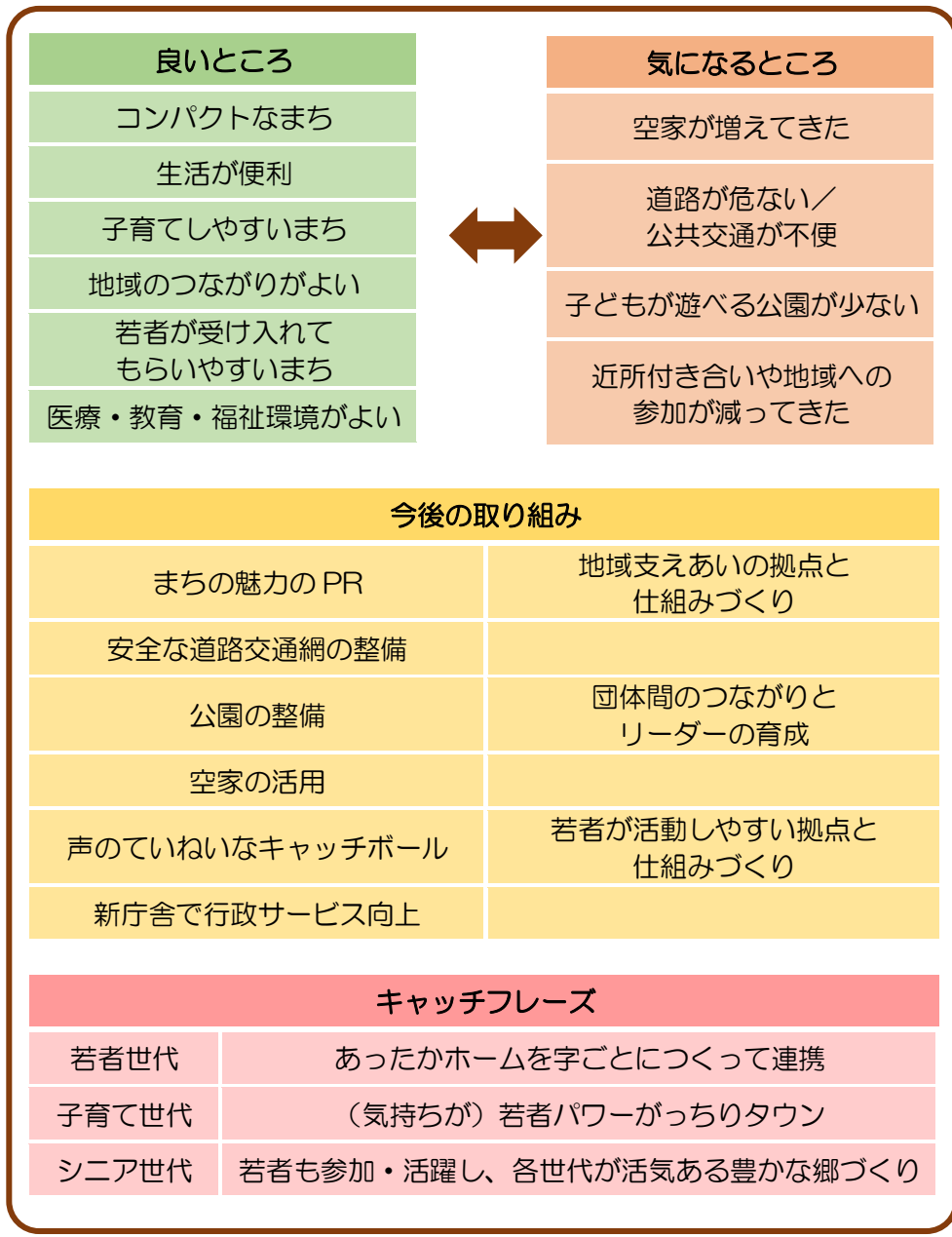
参加者のみなさまが〔A〕～〔D〕の世代ごとのグループに分かれて、豊郷町の「良いところ」、「気になるところ」、「今後の取り組み」について意見を出しあい、キャッチフレーズを考えました。

【中学生ワークショップ】

参加者が2つのグループに分かれて、豊郷町の「好きなところ」、「嫌いなところ」、「変わってほしいところ」、「将来どんなまちにしたいか」について意見を出しあい、キャッチコピーを考えました。

③ ワークショップのまとめ

【住民ワークショップ】



【中学生ワークショップ】

好きなところ		嫌いなところ	
意外と店が多く、緑豊かで、歴史もある。	↔	夜、不良がうるさい。	ゴミが多い。
豊郷小学校の旧校舎が自慢。			
病院があるし、高校生まで医療費が無料だ。			
住民がみんなフレンドリーだ。			
学校がきれいだし、給食も無料だし、最高に楽しい。			
変わってほしいところ			
電車（JR）や大きい道路がほしい。	↔	野球場、映画館、遊園地、ホテル、プール、スポーツ店、ピザ屋、大型ショッピングセンターがほしい。	
知名度をあげたい。			
給食をおいしくしてほしい。			
学校のトイレや体育館の対策をしてほしい。		温泉や、銀座、原宿、USJがほしい。	
将来どんなまちにしたいか			
<p>娯楽や買い物の施設がいろいろあって、JRが通り、スポーツがさかんで、知名度があがっている。</p> <p>みんなが笑顔で、ごみのない、ヤンキーもいないきれいな町、いろいろな店があって便利な町になって、学校もさらにきれいになっている。</p>			
キャッチフレーズ			
<p>よるも安全、 いべんとたくさん、 まごころたっぷり、 ちめいどアップ！</p>		<p>一生青春 ～おじいちゃん、 おばあちゃんも！！～</p>	

4. まちづくりの課題

まちの現状や第4次総合計画の検証、住民や各種団体の声をふまえ、今後10年間で特に取り組むべきまちづくりの課題をまとめると、次のとおりです。

(1) 子育て・教育環境のよさを生かす

本町では、小中学生・高校生の医療費無償化、小中学校給食費の無償化など、安心して子育てできるまちづくりを進めてきたことから、「子育てしやすいまち」との住民の評価は高く、出生率も高い水準を維持し、ファミリー層の転入も多くなっています。

今後も、このような子育て・教育環境のよさを生かし、地域の宝である子どもたち一人ひとりを大事にし、地域で見守り、育む必要があります。このため、子どもの発達を支援し、孤立を防ぎ、食や遊び、学びを通じた育ちを応援する仕組みをみんなで築いていく必要があります。

(2) 地域共生社会の実現

本町では、まちの特徴として「地域のつながりがよい」という住民の声がある一方、転入者の増加などを背景として自治会や老人会などの加入率の低下もみられ、「近所づきあいや地域活動への参加が減ってきた」という声もあります。

人生100歳時代と言われるなかで、65歳で高齢者と呼ばれ支援を受ける側に立つよりも、働きたい、楽しみたいという元気なシニアが増えています。

また、これまで「あったかホーム」などの取組によって、若者と高齢者等が共生する場づくりが進められてきました。あるいは転入してきたファミリー層においては、自治会よりもPTA活動等を通じて地域とつながりを持つという傾向もみられます。

このように今、時代の変化のなかで、新しい地域コミュニティと共助の精神にもとづく地域共生社会の実現が求められていると言えます。

地域共生社会の実現は、「支える側」と「支えられる側」が役割を固定されるのではなく、高齢者、障害者、児童、生活困窮者等を含む地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域のつながりを育成し、公的な福祉サービスと協働して、安心して暮らすことのできる社会の実現をめざすものです。

今後、「多世代コミュニティ」をキーワードとして、空き家・空き店舗活用も視野に入れながら、子ども・若者とシニア世代が出会い、互いに支え合う場を広げていく必要があります。また、「お互いさま」をキーワードとして、さまざまな生活支援ニーズへの対応、地域の見守りや孤立防止などに協働で取り組んでいく必要があります。

そして、このような地域共生社会の実現へ向けた協働の取り組みを支えるため、行政を中心とした関係機関との連携のもとに、支援を必要とする人すべてを対象とした地域包括ケアシステムの深化・推進を図るとともに、医療・保健・福祉のいっそうの充実を図る必要があります。

(3) 暮らしの安全・安心の確保

本町はコンパクトな環境のなかで買い物や医療・福祉サービスの利便性も高く「暮らしやすい」まちである一方、町内の主要道路の危険か所の解消や、高齢者等の移動手段となる地域公共交通のいっそうの向上など、道路・交通網の充実が望まれています。

今後は、主要道路の整備を図るとともに、共助による移動支援も含めて地域公共交通の充実を図り、誰もが安心して移動できるまちをめざす必要があります。

また、本町ではこれまで比較的災害の少なかったものの、南海トラフ地震発生のおそれが想定されているなかで、万が一の場合の被害をできる限り防止し、減らす防災・減災対策の強化を図る必要があります。

(4) まちの魅力の発信と産業振興

本町の産業は商工業の生産額が多く、雇用の場としては製造業、卸売・小売業、医療・福祉の分野で多くなっています。また、町域の半分以上を農地がしめており、その保全を図るうえで農業が大きな役割をはたしています。そして、近年豊郷小学校旧校舎群を拠点に町内の地域資源をいかして、来訪者が増加しており、まちの情報発信と産業振興の一角を担うようになってきました。

今後は、このような産業の特性を生かしたいっそうの振興を図り、まちの魅力の発信を強化していく必要があります。

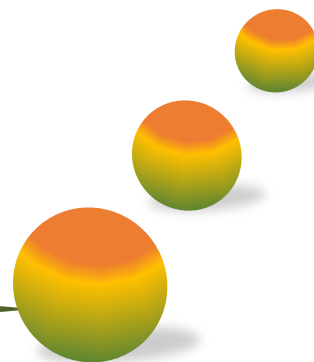
また、技術革新を生かした新たな雇用の場づくりや、地域共生社会の実現にもつながるコミュニティビジネスなどの起業支援など、多様な働く場づくりを進める必要があります。

(5) 参加と共有、持続可能な行政経営

本町ではこれまでも住民との対話を大事にして、協働のまちづくりを進めてきました。全国的にも地方創生へ向けて各自治体が努力を傾けているなかで、より住みやすい魅力のあるまちづくりをめざすためには、住民と行政が互いの声をていねいにキャッチボールしながら参加と共有のまちづくりを進めなければなりません。

そして、地域資源・行政資源を最大限活用するため、効率的・効果的な行政運営と健全な財政運営を進めるとともに、PPP（公民連携）の推進を図り、持続可能な行政経営を進める必要があります。

II 基本構想



第1章

まちづくりの理念と将来像

II

基本構想

1. まちづくりの理念

まちづくりの 理念 1

みんなで作るまち

住民・地域・事業者・行政が手を携えて、互いの信頼と協調を育てながら、明るい未来へ向かって協働するまちをめざします。

このため、新しい形の地域のつながりを、さまざまな世代の力で築いていく多世代コミュニティと「お互いさま」のまちをめざします。

そして、あらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、安心して元気に暮らすことのできる地域共生社会の実現をめざします。

まちづくりの 理念 2

安心のまち

本町は、緑の田園に包まれながら、暮らしをとりまく社会サービスがまちのすみずみまで行き届くまちです。

良好な保健・福祉・医療のサービス基盤を活かして、子どもからお年寄りまで誰もが安心して暮らせるまちをめざします。

そして、万が一の災害の場合でも、できるだけ被害のない安全なまちをめざします。

まちづくりの 理念 3

元気なまち

豊郷町は、商業や教育、福祉・医療など各方面で活躍した多くの先人を生んだまちです。これからのまちづくりにおいても、豊かな明日へとチャレンジしていく元気なひとづくりをめざします。

明日を担う子どもたちが豊かに育ち、一人ひとりが生涯にわたって学びあい、持てる力を発揮する元気なまちをめざします。

そして、豊かな産業や地域共生社会の実現へむけた取組をつうじて、互いの元気が循環する一生青春のまちをめざします。

2. まちの将来像

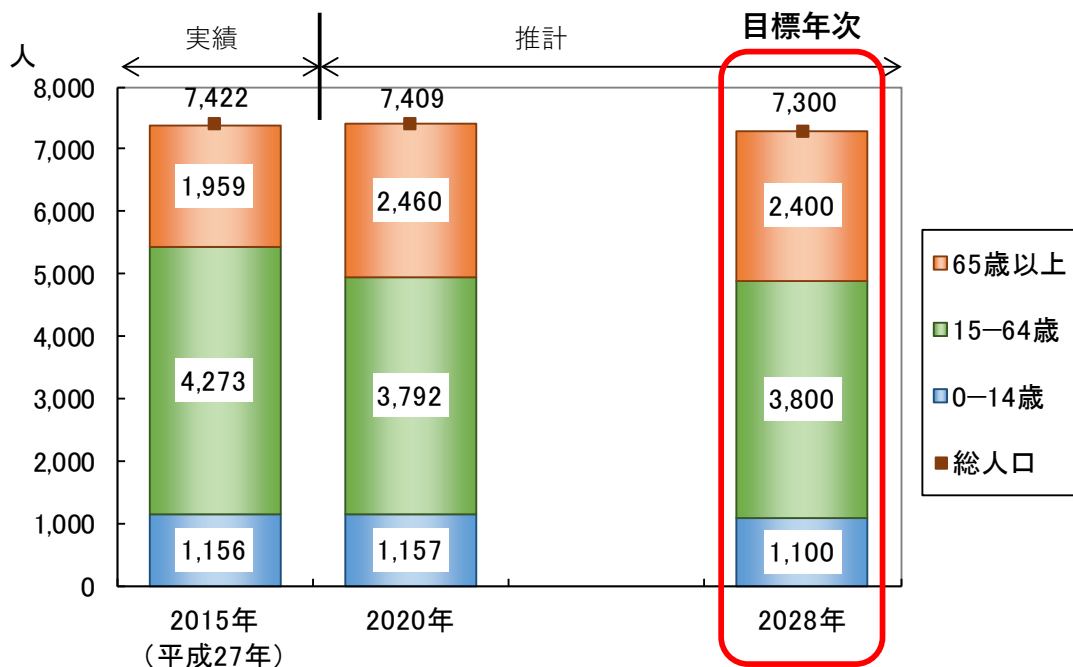
まちづくりの理念のもとに、私たちがめざすまちの将来像を次のとおり掲げます。



3. 人口の見通し

わが国における人口減少社会の到来のなかで、本町の人口も長期的には減少が避けられない見通しです。

しかし、今後、出生率のさらなる向上や町への定住・移住の促進に努めることによって、目標年次における人口を7,300人に維持することをめざします。



4. 将来の地域構造

本町の土地利用は、中山道周辺に形成された町並みとそれを包みこむようにひろがる農村集落、そして国道 8 号沿いに形成された工業・沿道サービス地でおおむね構成されています。

これからの土地利用や基盤整備の指針として、第 4 次総合計画の考え方を継承し、本町の将来の地域構造のあり方について次のとおりの方針を掲げます。

(1) 農業・農村ゾーン

ほ場整備された農地の保全・活用を図るとともに、若者定住へ向けて地域の実情に応じた集落環境の充実を図るゾーンと位置づけます。

(2) 住宅ゾーン

中山道と国道 8 号との間については、利便性の高い立地条件を活かし、排水対策の確保に努めながら、良好な住宅地を供給するゾーンと位置づけます。

(3) 工業・沿道サービスゾーン

国道 8 号沿線の工業・沿道サービスが立地する区域については、住民の雇用の場と、買い物など日常生活の利便性の向上を図るゾーンと位置づけます。

(4) まちの中心核

豊郷町役場、豊郷病院、豊郷駅を含む一体をまちの中心核と位置づけます。

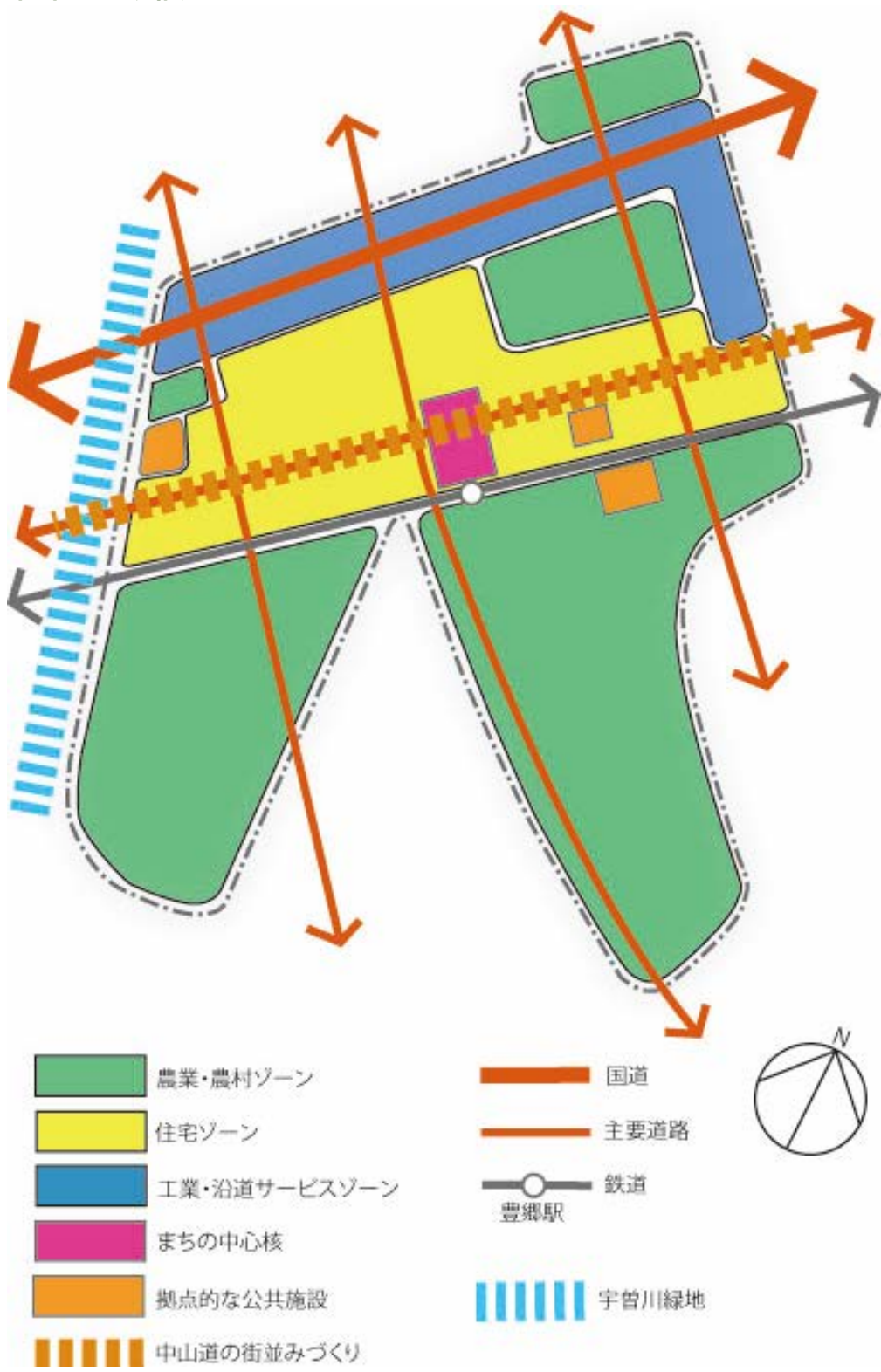
(5) 主要道路

町域の東西を結び、国道 8 号・中山道と湖東三山インターチェンジをつなぐ道路を主要道路と位置づけ、その改良整備を促進します。

(6) 中山道の街並みづくり

豊郷小学校旧校舎群を拠点として、中山道沿いの歴史文化資源や観光資源をつなぐとともに、地域住民との協働で花街道づくりに取り組むなど、歩いて楽しい街並みづくりをめざします。

将来の地域構造図



第2章

まちづくりの基本目標

まちの将来像である「一生青春、みんなで安心 元気なまち」をめざすため、次のとおり、住民と行政が協働で取り組むまちづくりの基本目標を定めます。

◎は重点項目

基本目標 1

子育て環境の強みアップ



本町の子育て・教育環境のよさを生かし、地域の宝である子どもたち一人ひとりを大事にし、地域で見守り、育むため、子どもの発達を支援し、孤立を防ぎ、食や遊び、学びを通じた育ちを応援する仕組みをみんなで築いていきます。

◎子育ての環境づくり

家庭・地域・関係機関が手を携えて、一人ひとりの子どもの発達を支援する子ども・子育て支援体制の充実を図るとともに、幼児期における教育・保育や地域における子育て支援の充実、子どもが安心して遊べる場づくりを進めます。

○子どもの教育環境の充実

計画的な教育施設・設備の整備充実と教育内容の充実、食育の推進を図りながら、学校・家庭・地域が一体となって、地域に開かれた楽しい学校づくりや青少年の健全育成を進めます。

○地域における学習環境の充実

図書館や地域の学習拠点を生かして、生涯にわたって学びあい、生活の質を高めあう生涯学習のまちづくりを進めます。

○まちの文化の保全と育成

文化ホールを拠点として住民の芸術・文化活動の振興を図るとともに、地域の歴史文化の保存・継承と活用を図り、郷土の歴史と生活文化に親しむ活動を進めます。

基本目標2 全世代参加の地域共生力アップ

新しい地域コミュニティと共助の精神にもとづく地域共生社会の実現をめざし、「多世代コミュニティ」と「お互いさま」をキーワードとして、地域で各世代間の支えあいが循環するまちづくりを進めます。

そして、このような地域共生社会の実現へ向けた協働の取り組みを支えるため、行政を中心とした関係機関との連携のもとに、支援を必要とするすべての人を対象とした地域包括ケアシステムの深化・推進を図るとともに、医療・保健・福祉のいっそうの充実を図ります。

◎多世代コミュニティの創造と地域福祉の推進

空き家・空き店舗活用も視野に入れながら、子ども・若者とシニア世代が出会い、互いに支え合う場を広げていきます。また、さまざまな生活支援ニーズへの対応、地域の見守りや孤立防止などに協働で取り組みます。

◎地域包括ケアシステムの深化・推進

高齢者だけでなく、障害者や生活困窮者、発達に支援が必要な子どもなど、支援を必要とするすべての人を対象とした全世代型地域包括支援センターの体制整備を図り、誰もが地域で安心して暮らせるよう、地域ケア会議や多職種連携の推進、権利擁護の推進に取り組みます。

◎健康づくりとスポーツの推進

「自分の健康は自分でつくる」を理念とした地域ぐるみの健康づくりや生活習慣病の発生予防・重症化予防、食育の推進と、いつでも、どこでも、誰でもスポーツを楽しめる生涯スポーツの推進に取り組みます。

◎高齢者福祉の充実

高齢者が生涯現役で地域に参加するまちをめざして、多世代コミュニティの創造と地域福祉の推進と一体となって介護予防・生活支援の推進を図るとともに、関係機関の連携のもとに就労や社会参加への支援に取り組みます。

◎障害者福祉の充実

障害者がいきいきと安心して地域で暮らせるまちをめざして、関係機関の連携のもとに、相談・情報提供体制や地域支援体制の整備を図るとともに、保健・福祉・医療の充実、就労・雇用の促進などに取り組みます。

○医療・介護の基盤整備

病院を核とした地域医療体制や地域に密着した介護サービスの充実、在宅医療・介護連携、認知症施策の推進を図り、誰もが安心して地域で暮らせるまちづくりに取り組みます。

○共生のまちづくり

一人ひとりの人権の尊重を基本として、人権意識・平和意識の啓発や人権教育の推進、男女共同参画の推進、外国人も暮らしやすく、来訪しやすい多文化共生のまちづくりに取り組みます。

基本目標3

暮らしの安全・安心力アップ



誰もが安心して移動できる道路交通・公共交通網の整備をはじめ、防災・減災対策や地域安全対策の充実、生活環境の整備や環境保全、循環型社会の形成を図り、暮らしの安全・安心を高めます。

◎道路交通・公共交通網の整備

住民生活を支える主要道路の改良整備を促進するとともに、共助による移動支援も含めた地域公共交通の充実による移動手段の確保・充実に取り組みます。

○防災・減災対策の充実

南海トラフ地震発生のおそれなど、万が一の場合の被害をできる限り防止し、減らす防災・減災対策の強化を図ります。

○地域安全対策の充実

子どもや高齢者など弱い立場の住民も犯罪や事故に巻き込まれることなく安心して暮らせるよう、交通安全対策、防犯対策、消費者対策の充実に取り組みます。

○生活環境の整備

公営住宅や上下水道の適切な整備・管理を進めます。

○環境保全の推進

農地や宇曾川などの良好な環境を保全し、未来へ引き継ぐための環境保全・環境美化、公害防止策の推進に取り組みます。

○循環型社会の形成

地球温暖化の防止へ向けて、環境にやさしい暮らしの実践を促進するとともに、住民・事業者・行政が一体となってごみの減量化・再利用・再資源化を進め、限りある資源を有効に利用する循環型社会の形成に取り組みます。

基本目標4

まちの魅力と活力アップ

本町の農業、商工業、観光など産業の特性を生かしたいっそうの振興を図り、まちの魅力の発信を強化していきます。

また、技術革新や地域強制力を生かした新たな雇用の場づくりや起業支援など、多様な働く場づくりを進めます。

○農業の振興

一定の生産基盤整備と集落営農の法人化を生かし、担い手の確保と農地の集約など持続可能な農業の振興を図るとともに、特色ある農産物生産の推進、地産地消や体験農業の振興に取り組みます。

○観光の振興


豊郷小学校旧校舎群をはじめ多様な観光資源を活用し、広域連携も含めた観光振興と情報発信を図るとともに、楽しく歩ける中山道の街並みづくりに取り組みます。

また、江州音頭など郷土の歴史文化の活用や発信に取り組みます。

○地域産業の振興と雇用対策の充実

既存商工業の振興を図るとともに、技術革新を生かした新たな雇用の場づくりや、地域共生社会の実現にもつながるコミュニティビジネスなどの起業支援など、多様な働く場づくりを進めます。

基本目標5

住民直結の行政力アップ 

より住みやすい魅力のあるまちづくりをめざすため、住民と行政が互いの声をていねいにキャッチボールしながら、情報共有と住民参画のまちづくりを進めます。

そして、効率的・効果的な行財政運営や、PPP（公民連携）の推進を図り、持続可能な行政経営を進めます。

◎情報共有と住民参画の推進

情報公開と広報広聴を通じたていねいな情報の共有を図りながら、まちづくりの主人公である住民、地域、事業者の力が十分に発揮されるよう、計画から実施段階にいたるまでの多様な住民参画機会の創出を図ります。

◎持続可能な行政経営の推進

地域資源・行政資源を最大限活用するため、効率的・効果的な行財政システムの確立と政策形成能力の向上を図るとともに、PPP（公民連携）の推進を図り、持続可能な行政経営を進めます。